

自然に感謝と思いやりの心を



長年環境保護活動に尽力

古橋 純一さん 63歳
龍蔵寺町



30年間カワセミの写真を撮り続けてきた古橋さん。その間、環境保護活動に尽力し、前橋市水と緑のまちをつくる審議会の委員としてもさまざまな提言を行ってきた。

「子どもの成長記録を撮るうちに、カワセミの写真も撮ってみようかと思っただけです。撮影を続けるうちに見えてきたのは、カワセミが成育することのできる環境の少なさでした」

「ファインダーを通してカワセミとその周囲の環境を見つめ、人間と自然の関わり方を考えるようになった。そして、人間と自然が共存できるような開発の方法を提案してきた。」

「大切なのは思いやりの心。人が人々を思いやるように自然も思いやる。人間も

自然の一部なんですから」

活躍は環境保護活動だけにとどまらない。現在は繊維業を営む傍ら、織物作家の指導や育成など、養蚕業を守る取り組みにも力を入れている。群馬県の素晴らしい絹糸を全国に広め、未来につないでいきたいという。

宝物は6人の孫たち。最近ではカワセミよりも孫の写真撮る方が楽しいのだとか。

「やりたいことがあるうちは健康でいられると思っています。孫たちのためにも、まだまだ頑張ります」

夢はアメリカでカワセミの写真展を開催すること。そんな古橋さんと一緒に、人間と自然が共存できる未来を一日も早く実現したい。

見たい
知りたい
伝え隊

今回のテーマ
「バラ」



まえばしのバラ「あかぎの輝き」

昭和50年4月、小中学生からのアンケートによりにつつじとともにバラを市の花に制定。それ以来本市ではバラを活用した特色のあるまちづくりを推進しています。

平成20年にリニューアルオープンした敷島公園ばら園には約600品種7,000株のバラが咲き誇り、市民の憩いの公園として親しまれています。毎年バラの見ごろを迎える春と秋には、ばら園まつりを開催。大勢の来園者にぎわいます。

数ある種類の中で特におすすめなのが、まえばしのバラ「あかぎの輝き」。これは第25回全国都市緑化ぐんまフェア開催を記念して、市内のバラ生産者が品種改良したオリジナルの25品種の中から選定

されたもの。昨年10月に「あかぎの輝き」と名称を決定しました。つぼみは黄色、咲き始めはオレンジ、徐々に赤く染まり、最後は赤。グラデーションがとても美しいバラです。

昔も今も数ある贈り物の中で人気が高いのがバラの花束。照れくさいと思いがらプレゼントした男性も多いはず。また、「バラ色の日々」という言葉もよく使われるなど、幸せを象徴しています。

バラの香りが初夏の訪れを告げるとともに、多くの人に幸せを運んでくれることを祈ります。

みんなの声

家でミニバラを育てています。見ると癒され、また春が来たなと感じます。

(二ノ宮麻衣さん・青柳町) 庭に植えています。枝切りが難しいですね。講習会があれば積極的に参加していきたいです。(梶原瑞枝さん・富田町) 結婚当時庭に植えたバラを挿し木にして、4年前に今の住所に。昨年、そのバラにつぼみがつきました。バラの花とともに結婚46年、これからも大切に育てていきます。(新井幸男さん・江田町)

このコーナーでは皆さんからのエピソードをお待ちしています。今回のテーマは「ホテル」。6月2日(木)までに、住所・氏名・電話番号を記入し、市役所市政発信課「見たい知りたい伝え隊」係へハガキかEメール (niseitaisin@city.maebashi.gunma.jp) へ。

クローズアップ



力を合わせて被災地を支援

4月30日、福島県いわき市への災害支援ボランティアに前橋工科大の学生29人が参加。本市職員などと一緒に、観光施設のがれきを撤去しました。津波による被害を目の当たりにして驚きながらも、自分たちにできることをやろうと一生懸命作業を行いました。



みんなの笑顔があふれる集い

桃井地区ののびゆくこどものつどいを4月29日、桃井小で開催。子どもと地域の交流がテーマのこの催しに、元気いっぱいの子もたちが参加。おもしろ自転車や理科実験などの各コーナーを楽しそうに駆け回り、みんなの笑顔がはじけました。



浄水場で楽しい連休

5月3日から5日までの3日間、敷島浄水場の一般開放を行いました。約40種370本のつつじが来場者を魅了。ことしは震災の影響でイベントは実施しませんでした。訪れた人たちは、色鮮やかなつつじの前で記念撮影をしたり、水道資料館の展示を熱心に見学したりしていました。



こいのぼり揚げがあったよ

4月21日、元総社南小でこいのぼり集会を開催しました。生徒たちの元気な成長を願うこの行事。全校生徒が一生懸命作った174匹のこいのぼりが青空の下、一斉に掲揚されました。